

令和 4 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	52	学校名	茨城県立石岡商業高等学校				課程	全日制		学校長名		広戸 純					
教頭名	赤津 克齊								事務（室）長名		堀 昭則						
教職員数	教諭	27	養護教諭	1	常勤講師	0	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手		3	事務職員	2	技術職員等	3	計	39
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	商業科		33	46	23	34	19	47			75	127	6 クラス				
	情報処理科		23	15	27	13	16	17			66	45	3 クラス				

2 目指す学校像

生徒の人格を重んじ、地域社会の要請に応えながら激しく変化する社会に柔軟に対応できる力を育むとともに、社会に有為な調和のとれた人間の育成に努める。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①生徒一人ひとりの個性を尊重し、のびのび学び、未来を切り拓く力の育成 ②地域社会の要請に応えながら激しく変化する社会に柔軟に対応できる力の育成 ③社会に有為な調和のとれた人間の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①商業高校ならではの、役立つ技術・確かな資格を生かした進路希望の実現 ②企業人に必須のビジネスマナー・規範意識を学び、企業が求めるコミュニケーション能力の育成 ③組織的・系統的なキャリア教育を実践し、生徒の進路意欲を引き出し、目標の実現
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①高校から新しく学ぶ商業に興味関心を持って意欲的に学ぶ生徒 ②簿記やコンピュータ及び英語に関する資格取得にチャレンジする生徒 ③学校行事や部活動及びボランティア活動に積極的に取り組む生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	授業の工夫改善、ICT 教材の活用等により基礎学力の養成を図ることで、主体的に学習に取り組む態度と、学習習慣の向上を目指している。資格取得では、全商検定 1 級 6 科目合格を輩出するなど健闘した。	主体的に学習に取り組む態度の向上のため、学習場面に応じた ICT 活用の工夫が必要である。基礎学力の定着と、資格取得を可能とする体制づくり、教科連携の組織づくりが課題である。
進路指導	進路は多岐にわたり、生徒の能力・適性に応じた指導を行っている。令和 3 年度卒業生は、進路決定率 100%であり、商業の学びを活かした大学進学や就職で実績を残した。コロナ禍のため、進路ガイダンスや交流活動の形態を変えるなど様々な工夫を行ったが、それらが意識醸成に役立っている。	求人開拓を図るとともに、3 年間を見通したキャリア教育や実践的な学習を推進し、進路や実社会に対する意識を高め、自らの意思と責任で主体的に進路実現していくことが課題である。
生徒指導	頭髪・服装・登校指導を定例で行い、基本的生活習慣の確立に努めた。遅刻や問題行動は減少傾向にあるが、SNS によるトラブルが依然としてみうけられる。人間関係構築力の育成が必要である。	全職員による指導を継続し、生徒の実態把握の上、更なる規範意識の高揚を図る。また教員研修の充実や外部との連携が必要である。
特別活動	感染症対策及び、内容を精選した文化祭など工夫しながら学校行事を行い、生徒達の熱心に取り組む姿が見られた。部活動については、年間を通して活動ができるような取組と、加入率の向上を図ることが必要である。	生徒個々が自己有用感や自己肯定感を持てる場面づくりを創出する。キャリアパスポートの活用による意識喚起も工夫したい。
安全・安心な環境作り	感染症対策をはじめ、生徒・教職員の健康と、安全・安心な教育環境を維持するための取組を意識して実施した。小規模校故、職員個々が幅広い役割を負いつつ学校運営に携わっており、多忙感は否めない。職員の働き方改革に向けての取組はまだまだ途上である。	感染症対策はじめ安全・安心な環境作りのために、迅速かつ組織的に対応する。働き方の意識改革と、ICT 活用、行事・業務の精選、役割分担の平準化を図るなどの見直しが必要である。

5 中期的目標

- ・多様な進路希望に対応し、時代のニーズに応じた教育課程を編成し、確かな学力の養成を図る。
- ・3年間を見越して組織的・系統的かつ実践的なキャリア教育を行い、生徒の進路意欲を引き出し、目標の実現を図る。
- ・個人面談・教育相談体制を充実させ、生徒理解と信頼関係の醸成に努め、いじめ等の未然防止を図る。
- ・全職員による生徒指導を通して、基本的生活習慣の定着と規範意識の高揚及び自己指導能力の育成を図る。
- ・特別活動の充実を通して、主体性・自律性を育むとともに豊かな人間性を培う。
- ・安全安心な教育環境作りと、教職員の働き方改革を進め、個々の教員が生徒とゆとりを持って接することのできる環境作りを目指す。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 授業の工夫・改善を図り、主体的に学習に取り組む態度と、確かな学力を育む。	① 指導方法の工夫・改善を図り、学習意欲の向上と基礎学力の向上を図る。 ② 資格取得を通して実践的な学力を養成し、希望進路を実現する。 ③ 学習場面に応じた ICT 活用の推進。 ④ 探究を軸とした学びのスタイルを重視し、問題解決型学習の機会を創出する。
2 規範意識を醸成し、基本的生活習慣を確立する。	① 様々な活動を通して、規範意識・社会性・思いやりの心を育てる。 ② 面談や教育相談を活用し、生徒理解を深め、信頼関係を構築する。
3 組織的・系統的なキャリア教育を推進する。	① キャリア教育を推進し、進路意識の高揚と目標実現のための実践力を養う。 ② 実習などの体験的な学習を通して、協力・協働していく力を育成する。
4 特別活動の充実を図り、豊かな心を育む。	① 特別活動を通して、心の居場所となる学級・学校づくりを推進する。 ② 生徒会活動、部活動を活性化し、リーダーとなる人材を育成する。
5 地域や保護者から信頼される学校づくりを推進する。	① 中学校や地域との連携・交流活動を推進し、相互理解と協力関係の醸成に努める。 ② 学校通信、ホームページ・学校公開などを通して、積極的に情報を発信する。
6 安全で安心な教育環境作りをめざすとともに、教職員の働き方改革を進める。	① 感染症対策はじめ、生徒・職員の健康と安心安全に資する教育環境作りを図る。 ② 働き方に対する教職員の意識改革を進める。